

指 導 係

1 指導関係事業

(1) 学校訪問

指導主事が随時訪問し、校長をはじめ教職員と協議懇談することにより、学校の抱える問題点を解明し、指導・助言をした。また、要請により研究会等に参加し、指導・助言を行った。

(2) 研修会

平成 28 年度は、次の研修会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

ア 校長研修会	2 回
イ 副校長研修会	1 回
ウ 主幹教諭任用時研修会	1 回
エ 主任教諭任用時研修会	1 回
オ 教務・研究主任研修会	2 回
カ 生活指導主任研修会	1 回
キ 進路指導主任研修会	1 回
ク 情報教育研修会	2 回
ケ 特別支援教育研修会	1 回
コ 特別支援学級研修会	3 回
サ 水泳指導研修会	1 回
シ 人権教育研修会	2 回
ス 教育課題研修会	2 回
セ 教育研究会研修会 (24 部会)	17 回
ソ 教育相談研修会	1 回
タ 10 年経験者研修会	10 回
チ 初任者研修会	11 回
ツ 2 年次教諭研修会	3 回
テ 3 年次教諭研修会	2 回
ト 4 年次教諭授業観察 (研修会)	1 回
ナ 環境教育研修会	4 回
ニ 服務事故防止研修会	1 回
ヌ 小学校外国語活動研修会	2 回
ネ 中学校英語科指導研修会	2 回
ノ 転任教諭等研修会	1 回
ハ 食育リーダー研修会	3 回
ヒ 理科実技研修会	1 回
フ 学級経営研修会	1 回

(3) 音楽鑑賞教室

市立小・中学校児童・生徒の音楽鑑賞教室を、オーケストラ・合唱両部門を各 1 回ずつ、市民会館において開催した。

(4) 演劇鑑賞教室

市立小学校に通う児童を対象とした演劇鑑賞教室を、小学校 3 校において、各校の体育館を会場として開催。平成 28 年度は、福生第二小学校、福生第四小学校、福生第六小学校の児童が、

劇団飛天による『忍者サスケ』を鑑賞した。

(5) 教育研究奨励、教育研究委託

教育研究を奨励するとともに教育研究を委託し、教職員の使命の自覚を促すとともに、資質の向上を図った。

ア 教育研究奨励

(ア) 教育研究奨励校 2校

・福生第三中学校（2年次）

研究主題「進んで課題に向き合い考えを深め表現できる生徒の育成～言語活動・キャリア教育の充実を通して～」

・福生第一小学校（1年次）

研究主題「自分の考えをもち、学び合う児童の育成」

(イ) 教育課題等研究校 8校

・福生第二小学校

研究主題「「わかる」「できる」「楽しい」授業作り～学力を定着させるための45分の効果的な活用方法～」

・福生第三小学校

研究主題「自分で解決できる児童の育成～既習事項を活用する力を育て、学習を定着させる指導の工夫～」

・福生第四小学校

研究主題「自分の考えをもち、表現できる子供の育成～言語活動の工夫を通して～」

・福生第五小学校

研究主題「自分を大切にし、自分で考えて行動する子の育成～子供の考えがあふれる道徳の時間を目指して～」

・福生第六小学校

研究主題「自分を大切にし、人を思いやることのできる児童の育成～児童の自己肯定感を高める取組を通して～」

・福生第七小学校

研究主題「自ら考え表現する児童の育成～児童が考えたくなる授業の工夫を通して～」

・福生第一中学校

研究主題「生徒が意欲的に取り組む授業の構築～研究授業を中心に～」

・福生第二中学校

研究主題「適正な評価評定」

イ 教育研究委託

- ・学校経営研究委託（校長会、副校長会）

(6) 特別支援教育の推進

特別支援学級の児童・生徒の安全管理及び学習指導等の充実を図るために指導補助員を配置するほか、教員向けの特別支援教育研修会等を開催し、教員の特別支援教育に関する理解を深め指導力の向上を図った。

(7) 各種指導補助員等配置事業

小・中学校に各種指導補助員等を配置して、児童・生徒の指導補助等を行った。

事業名	人数	配置時間
中学校適応指導補助員	14	2,774
夏季休業中水泳指導補助員	32	480
小学校水泳指導補助員	32	437
日本語適応支援員（技能指導講師）	9	856.5
日本語適応支援員（一般指導講師）	2	175.5
学習指導市民講師	32	58
小学校授業指導補助員	37	14,266
特別支援学級等指導補助員	25	6,934
部活動外部指導員	27	1,776

(8) 英語教育指導助手事業

福生市英語教育推進計画に基づき、中学校全校に外国人英語教育指導助手（ALT）を配置し、各小学校にも随時 ALT が巡回し、小学校第5・6学年の外国語活動及び中学校英語科の授業における補助を行った。また、小学校の第1～4学年についても、英語活動等における補助を行った。

指導日数：774日

(9) 理数教育推進事業

小学校第5・6学年、中学校全学年に理科支援員を配置し、理科授業の実験、授業等の補助を行った。

人員：18名

活動時間：1,025時間

(10) 小中一貫教育推進事業

“ふっさっ子未来会議”の作業部会である「小中一貫教育推進委員会」により、平成26年度に策定された幼保小中共通の学習指導及び生活指導の基準である「ふっさっ子スタンダード」に基づき、児童用下敷き及び生徒用クリアファイルを作成・活用することで、「ふっさっ子スタンダード」の定着を図った。

また、中学校生徒を対象に、生徒が自らの心理的・行動的な特性を測定する『K J Q調査』を平成25年度から引き続き実施し、その結果を指導に活用した。

(11) オリンピック・パラリンピック教育推進校事業

福生市立小・中学校全校が、東京都教育委員会の指定を受け、児童・生徒が、オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、国際的なスポーツ大会等が国際親善や世界平和に果たす役割を正しく理解し、世界の国々の文化や歴史を学び、交流することを通して国際理解を深め、スポーツを通して心身の調和的な発達を遂げ、進んで平和な社会の実現に貢献することができる児童・生徒の育成に向けて、研究に取り組んだ。

各小・中学校では、指導講師等の招へいや、オリンピック・パラリンピック教育に必要な教材・教具等の整備を行った。

(12) 学力ステップアップ推進地域指定事業

福生市立小・中学校全校が、東京都教育委員会の指定を受け、学力向上を目指すため、外部人材を活用するとともに、算数・数学及び理科における教員の指導力向上、算数・数学及び理科に

おける児童・生徒の基礎学力の向上を図った。

(13) 安全教育推進校事業

福生第四小学校が、東京都教育委員会の指定を受け、東京都教育委員会が発行する「安全教育プログラム」に基づき避難訓練の改善、一声指導の充実、家庭・地域・関係機関との連携等、防災教育の推進に係る研究を行った。さらに、授業公開や研究発表等を通じて、その研究成果を都や市内学校に普及啓発した。

また、福生市総合防災訓練において、福生第六小学校がメイン会場となって、地域住民と協働して避難訓練及び安全教育に関する公開授業を行い、地域全体で安全教育に取り組んだ。

(14) 日本の伝統・文化の良さを発信する能力・態度の育成事業

福生第三小学校、福生第四小学校、福生第七小学校及び福生第二中学校が、東京都教育委員会の指定を受け、「日本の伝統・文化の良さを理解し、様々な国や地域の方に日本の良さを発信できる児童・生徒」、「互いの文化を尊重した交流ができる児童・生徒」の育成を目的とし、地域等の専門家を活用した授業やJETプログラムによる英語等指導助手との交流を行った。

(15) 人権教育推進校事業

福生第六小学校が、東京都教育委員会の指定を受け、東京都教育委員会が発行する「人権教育プログラム」に基づき、あらゆる偏見や差別を解消することを目指して人権教育の研究・実践を行った。

(16) 道徳教育推進拠点校事業

福生第五小学校、福生第一中学校が、東京都教育委員会の指定を受け、「特別の教科 道徳」の実施に向けて道徳教育を専門とする講師を招へいし、道徳授業の改善に向けた研究を行った。

(17) スーパーアクティブスクール事業

福生第二中学校が、東京都教育委員会の指定を受け、生徒の体力向上を目的とした体力向上委員会を設置し、生活習慣や運動習慣などの見直しを行いながら学校全体で体力向上に取り組んだ。

(18) 英語教育推進地域事業

福生市が、東京都教育委員会の指定を受け、平成30年度からの小学校英語教科化先行実施を円滑に進めることを目的として、市内小学校に英語教育推進リーダーを配置し、教員の指導力向上や授業改善を図った。

また、実用英語技能検定（英検）について、中学校3年生全生徒及び小学校6年生希望児童が公費で受験し、英検取得を目指した。

(19) 関係機関と連携した総合的な不登校児童・生徒支援モデル事業

福生市が、東京都教育委員会の指定を受け、子どもの将来の社会的な自立を目指し、各校に不登校対策コーディネーターを配置した。その中で、教員の育成を図ったり、医師等専門家を学校に派遣するなどして、連携体制の構築を図った。

さらに「福生市不登校対策 T A R G E T 7」を定め、より効果的な不登校対策を行うために、学校と教育委員会が連携した研究を推進した。